

しおんだより VOL.63



当院では施設やご自宅へご訪問も行っています

私が当院に赴任した2015年当初から、ご自宅や介護施設に訪問診療に伺っています。当初は私だけでしたが、その後、常勤、非常勤のドクターにもお願いしており、現在は併せて4名のドクターが、併せて100名程度の患者さんのもとに定期的に訪問しています。もともと当院に外来通院していた方が、身体的、認知的に通院が難しくなりご訪問しているケースもありますし、当院から訪問している介護施設の方から新たにご相談をいただくケースもあります。

2015年から、ご自宅や介護施設の患者さんのもとにご訪問し、診療もしています。

私がいわゆる「在宅医療」に携わり始めたのは、もう20年前（！）になります。当時はまだまだ「珍しい…！」「そんなことやってるの！？」的な反応が多かったのですが、今や時代は大きく変わり、本当に当たり前の時代になりました。

外来診療をしながら、あいた時間で在宅診療されている個人開業医の先生もいらっしゃれば、複数の医師で在宅訪問をメインに開業されている方もいらっしゃいます。そんな中で、急性期病棟・地域包括ケア病棟・医療療養病棟を持つ当院が行う在宅訪問診療は、入院中の方を退院後も継続フォローできたり、逆に、在宅で療養されている方の病状が変動すれば、当院に受け入れたりできる特徴があります。機能強化型在宅療養支援病院を標榜する当院としては、そのような強みを多くの在宅療養を支えている医療機関とも連携して、さらにこの地区で活かしていければ良いなと考えています。

えべっさんも終わり、2026年も本格スタート

慌ただしい年末を過ぎ、お正月三が日を過ぎて、仕事が始まっても、大阪では、えべっさんが終わるまで、何か落ち着かない気がします。関西では、西宮恵比寿、大阪では今宮恵比寿が有名ですが、そのほかにも、いくつか、商売繁盛を願った「えびす祭り」が開かれるところがあります。大阪市北区の大阪天満宮でも祭りがあり、9日の宵宮、10日の本宮、11日の残りえびすと、夏の天神祭ほどではありませんが、結構混雑していました。



当院のような医療機関で商売繁盛というと、何か、病気になる人を待ち構えているみたいな感じもするので難しいのですが、採算が取れていないと、そもそも病院やクリニックを継続して続けることはできません。昨今も、色々報道されていますが、医療機関の経営は年々厳しくなっています。もちろん、制度的な問題もあるのだと思いますが、やはり、地域にお住まいの方や医療・看護・介護に携わる方に必要と思って頂けるサービスや診療内容を作っていかなければ、患者さんに来て頂くことはできませんし、何かあったら、思温病院にと思って頂けるようにならなければ、経営は厳しくなります。

「地域の方々に、思温病院があるから安心・安全と思って頂くこと」という当院の理念をしっかりと具現化していきたい。そう考えながら、今年もお参りしてきました。



生涯学ぶ姿勢を持つことは大切です

もう10年ぐらいいになりますが、神戸のポートアイランドにある兵庫医科大学で、看護大学院の学生さんに講義をしています。学生さんで行っても、すでに看護師になって働かれている方で、年度によっては結構ベテランの先生がいらっしゃることもあります。

ちょっと見づらいですが、自撮りスタンドを使って撮影しました…！年末の一瞬でしたが、海と空と山に癒やされて大阪に戻りました。

講義や実習もしっかりあるので、一旦、長期の休職をされてこられる方もおられます。講義の合間などにその理由をお尋ねすることがあるのですが、日常業務の中で限界を感じたり、新たな知識や技術が要ると感じたりした方がほとんどです。私も大学院に行ったのは、医師になって6年目で30歳も超えていましたが、そんなにしっ

かり考えていったかなあ…とちょっと反省です。でも、あの4年間で色々学ぶ姿勢やノウハウを学んだことは、間接的にせよ今に生きていると感じます。（文責：狭間研至）

しおんだより 第63号 発行日：令和8年1月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp